

今月のことば

煩惱が
なくなるといふより
煩惱で
なくなるといふより
それがさとり

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「さとりとは、煩惱が無くなった状態だと言うけれど、煩惱が無くなったら、ボーッとした状態になり、何もする気が起らないのではないだろうか」

私は、学生の時、このような疑問を持っていました。そこで、ある先生に質問しました。すると、

「そうですね。『煩惱が無くなる』と言うより、『煩惱でなくなる』と言った方がいいでしょうなあ」と、答えてくださいました。

さとの境地とは、『煩惱が無くなる』と言っても間違いではないのですが、それは、「何かをしようという思い」がない、空っぽな状態ではありません。自己中心の心から離れられず、自分の欲望を満たそうという思いが、自らを煩わし悩ますので、煩惱というのであって、自己中心の心を離れた所から出て来る「何かをしようという思い」は、煩惱ではないのです。

例えば、「人を助きたい」という思いも、「自分の好きな人だけを助きたい」という自己中心の心から出て来たものは煩惱ですが、「すべての人を助きたい」という自己中心の心を離れた所から出て来たものは、煩惱ではないのです。

つまり、さとりとは、「何かをしようという思い」が無くなった状態ではなく、自己中心の心を離れた所から出て来る「何かをしようという思い」が、どんどん生まれてくるような境地であり、それが、『煩惱でなくなる』という状態なのです。

さとりを開いた仏さまを仰ぎながら、この人生を歩んでいきたいと思っています。

合掌